

2025 年第 27 週の報告です。

伝染性紅斑は全国と京都府全体の警報レベルは今週も継続中です。府内の保健所別では乙訓・山城北・山城南・南丹・丹後で警報が継続しているほか、中丹西では新たに警報レベルになりましたが、山城北では 0.71 件で警報継続基準値を下回りました。また乙訓・山城北では**咽頭結膜熱**が、南丹で**ヘルパンギーナ**の警報レベルが継続中です。**水痘**は今週も山城南で注意報レベルとなっています。

全数報告対象の疾患は**結核**が 8 件、**腸管出血性大腸菌感染症**・**E 型肝炎**・**ウイルス性肝炎**・**カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**・**侵襲性髄膜炎菌感染症**・**梅毒**がそれぞれ 1 件、**レジオネラ症**が 3 件、**侵襲性肺炎球菌感染症**が 2 件、**百日咳**が 24 件報告されました。

侵襲性髄膜炎菌感染症は髄膜炎菌による感染症で、本菌が髄液または血液などの無菌部位から検出された場合に診断されます。症状は頭痛、発熱、嘔気など風邪様症状から、重症肺炎、関節炎、心膜炎、菌血症、敗血症、髄膜炎等を呈するものまで多彩です。発症から 24～48 時間以内に急速に進行し死に至る可能性のある重篤な疾患であり、適切に治療されていても致命率は 10-15%とされます。飛沫感染で伝播し、特に同居や寮生活のように衣食住を共にする場合や、イベントなどで食器類を共有する等の濃厚接触がある場合は、感染伝播のリスクが高くなります。過去には国内の学生寮などで死亡例を含む集団感染も何度か報告されており、ガイドラインでは濃厚接触者及びハイリスク者に対して、抗菌薬の予防投与とワクチン接種が推奨されています。国によっては寮生活等での集団感染を防ぐため、留学前にワクチン接種が推奨または必須とされている場合があります。ただし本邦においては、これらの予防目的の抗菌薬投与やワクチン接種は、特定の基礎疾患を有する場合を除いて、基本的に保険適応外となることにご留意ください。